

# 1 級 東京会場 【パターン・工業用パターン】傾向と対策

## 1. 作図・工業用パターン

### <身頃>

- ・ 作図方法は配布されたスローパー使用、囲み製図、ドレーピング、どの方法でも良い。  
試験に望む際、各自が作業しやすい手法を選び作図を行う。
- ・ 課題のシルエットは、3面構成のパネルラインのジャケットである。衿ぐり、袖ぐりにジャケットとして適量のゆとりを入れ残りの分量はウエストダーツを利用しマニピュレーションで処理するが、マニピュレーションするダーツ量が適切でないと美しいシルエットが得られない。シルエットを確認し、分量の調節は必須である。
- ・ 3面のパネルラインの切替え線位置は、必要なバスト寸法とウエスト仕上がり寸法を決めて後ろ身頃、前身頃、ウエストダーツ中心へ振り分け、切り替え線を決める。脇に縫い目線がない分、切り替え線が中心に寄りすぎると3面体のシルエットが得られない。切り替え線（デザイン線）と脇身頃の切り替え線（構造線）は滑らかなカーブを描くことは必須である。
- ・ マニピュレーションの展開位置は、ウエストダーツからポケットの縫製時に切り込まれる線に向かって展開する。今回は両玉縁付きフラップポケットのため、両玉縁の切り込み位置に展開線を引き、展開する。切り込み位置から下に残ったウエストダーツは美しく縫製する為に、前パネルラインの切り替え線でカットすることが多い。玉縁ポケット位置でのマニピュレーションはポケットの位置とウエストダーツの長さによりダーツ処理方法やシルエットにも影響するため、しっかりと復習して頂きたい。

### <ボタン、ポケット>

- ・ ボタン、フラップポケットや胸ポケットのつけ位置や大きさが合わないものがあつたが、デザイン画をよく見てフラップポケット位置とボタン間隔のバランスを推測しボタン位置を決めて頂きたい。
- ・ フラップ幅は縦穴の釦ホールが付く長さが取れるように注意する。

### <ラベルと衿>

- ・ 上衿とラベルの接ぎ合わせ位置や上衿とラベルの大きさのバランスが悪いものが多かつた。事前に上衿とラベルのバランスを研究し、デザイン画をよく見て作図に望んで頂きたい。
- ・ 前後衿ぐり線の繋がりが悪いと美しい衿の形状が表現できない。パターン作成で必ず繋がりを確認することは重要である。

### <袖>

- ・ 袖の製図は身頃の袖ぐりに対して適当な袖山の高さを決め、出題にある素材と価格設定に合ういせ分量を入れなければならない。袖山のいせ分量の配分が悪いものや、袖山の形状がよくないものが目立つた。

- ・ 袖山のカーブの形状も付けた時の袖の振りや形状に大きく影響する為、美しい袖山形状の作図を身につけていただきたい。
- ・ この問題の袖口明きみせのボタンは3個であるが、ボタンの個数に対して明きみせの長さやボタン位置や大きさを設定し、バランスよく作図する。

## 2. 提出用工業用パターン

- ・ 提出用工業用パターンはファーストパターンに縫製方法を考えた縫い代を取り作成する。各パーツの角処理、角処理のノッチ、合い印は正確に付けて頂きたい。
- ・ 表衿、見返しの展開方法は様々であるが、出題にある素材に対して分量を決め作成する。工業用パターンはわ裁ちの場合は左右のパターンを開いて作成するが、裏衿の後ろ中心線は、わ裁ちや接ぎの方法がある。裏衿はわ裁ち・接ぎ何れかの方法で作成し、表衿はわ裁ちで作成する。右パターン作成の為、見返しは反転して作成して頂きたい。
- ・ 出題に表地のすべてのパーツ作成とある為、芯地や裏地の工業用パターンは不要であるが表地のパーツはすべて揃っていないと合格にならない。特にポケットのパーツに欠落が多く見受けられたので注意する。
- ・ 箱ポケットはデザイン画にあるように左胸に付く為、右側のポケットを反転させてポケット口をわ裁ちで作成して頂きたい。
- ・ 工業用パターンには通常、伸び止めテープや芯を貼る位置を記載するが、企業や縫製工場により様々な方法がある為、本検定では伸び止めテープ、芯の指示は採点基準に含んでいないが、パタンナーの業務として仕上がりのよい商品を作る為に、何処にテープや芯を貼るべきかを考え必要な位置に指示して頂きたい。

## 3. 縫製仕様書

- ・ 縫製仕様書は様々な記入方法があるが縫製工場が縫製仕様書を見て確実に縫製できるように仕上げる事が重要である。特にデザイン画からパターン作成を行った際、パターンと同じ前後の正確なハンガーイラスト記入は必須で正確な仕様を伝える為、断面図が必要な場合もある。ステッチの有無、ボタンの大きさの記入にも注意し、出題にある素材、価格設定から縫製方法を決めて記入しなければならない。

**最後に、提出用工業用パターンではファーストパターンの正確性も重要であり、課題のイラストを読み取り、パターン規定寸法内でバランスよく構成され、縫い目の形状や繋がり、いせややのばしを入れ立体的な形状が表現できるパターン作成が大切である。**